「小浜城跡」発掘調査

９月６日（日）国道 162 号道路改良工事の実施に伴い、小浜城後の発掘調査が6月よりおこなわれており、城の正面玄関「大手門」があったとされる小浜簡易裁判所敷地を含む周辺で実施され、一般向けに現地説明会が開催されました。

矢穴痕とは？

石を割るために、「矢」をよばれる金属の楔を打ち込むために掘られた穴

刻印（Ｏが２つ）

京極家が造ったとみられる小浜城大手門脇の石垣

今回の調査では、小浜城跡の大手門わき（外側）の石垣を確認したほか、櫓や塀などに葺かれていた瓦が見つかり、小浜城跡の一部を確認されました。

大手門わきの石垣には大きな花崗岩が用いられており、見た目を意識しています。

今年度は 12 月まで大手門が存在した地点を調査することになっています。

敬老の日　家族の絆！

城内２丁目の森見志げさんは大正生まれの 104 歳。大正・昭和・平成・令和の時代を過ごしてこられました。

長男の森見武さんは「自分の親は家族で見守りたい。」と在宅介護を選択され、食事や身の回りの世話を家族で続けておられます。

武さんは「子どもや孫にもこの姿は伝わるのでは」と日々、介護を続けられています。

親の背中をみて子ども、孫たちが育つ良いお手本ですね。

いつまでもお元気でお過ごし下さい。

—昭和２８年 台風１３号　体験談—　№６

令和２年５月　記

上竹原区　須田　喜代司　氏（その１）

（当時の年齢１１歳）

「九死に一生を得る」

そんなに豪雨でもなかったが、一週間以上雨が終日降り続いているのが、昭和２８年９月２５日の金曜日でした。私も一生忘れない日付です。

水害の思い出を書こうと思って始めましたが、なにしろ６７年前は１１歳でしたので、記憶も定かでなく思い違い等多々ありますが、出来るだけ書いてみようと思います。

私が、雲浜小学校の５年生の時です。昼前の頃かと思いますが時刻は定かではありません。台風が来るというので地区ごとに集団で下校するように言われました。当時、登校は近所の人たちで集まって行うのが常で、集団下校は無かったと思います。関と上竹原の生徒が一緒に帰宅したのですが、当時の市長の孫の方は私と一歳上の人と二歳下の人も一緒でした。私の家とは裏の畑が隣同士なのでよく遊んでもらいました。その人たちの近くまで帰ってきたとき「さいなら、又明日」と言って別れました。それが永遠の別れになるなど夢にも思っていませんでした。

家に帰ると母が「避難するからみんないるものを用意しな」と言いました。私の父は仕事に行って不在で、私の下に３人の弟がいました。小学２年生、４歳、生まれて半年の乳児の計５人が在宅です。母もてっきり避難するものだと思っていたらしいのですが、近所を見てもその様な様子はなく、どこからも連絡がないので家に居ることにして、「つし」と呼ばれる屋根裏に上がりました。

しばらくすると水がすぐそこまで上がってきたのが見えました。一段高い処があったのでそこに上がり過ごした次第です。母が涙ながらに一番下の弟のおむつを変えながら「半年の命だったなぁ」と言っていたのを覚えています。古い家でも女、子供の素手では屋根を破ることなど不可能でした。

外からは上流から家ごと流されて屋根の上に乗っているのか「おーい　おーい」という声が聞こえてきますが何も見えません。私は何をすることも出来ず、母が一心に念仏のようなことを唱えているのを真似しているばかりでした。「これで死ぬだろう」と子ども心に思っていました。死ぬということがどういうことか良くわかっていなかったと思います。

ところが突然水位が下がりだして「助かったのだ」と思い、とにかくみんな寝ることにしました。
後で知ったのですが雲浜小学校の近くの処で堤防が切れてそこから水が引いて行ったらしいです。

正に「九死に一生を得た」という思いです。水の流れがひとつ違っていたら私の人生は、１１歳と５カ月で終わりを告げたことでしょう。ひと眠りして目が覚めると朝でした。下へ降りてみたら今まで見たことのない我が家がありました。タンスはひっくり返り、畳があらぬところにありという状況で、未だ水が流れていました。

隣のおじさんが「関は半分流されたらしい」と言っておられました。母共々唖然としているばかりです。そのうち市からかどうかわからないのですが、裏の堤防からボートを出してもらい、それで家から堤防に避難しました。そこから公民館へ連れて行って貰いました。途中で父がどのようにして（三方から）帰って来て合流しました。

公民館で一晩過ごしましたが上竹原は３～４軒だったと思います。関はかなりの人が居らして区長さんもいて、市といろいろ打合せをしておられたが、上竹原は誰も世話役のような人が居ないので埒が明かないということで、早々に帰宅したと思います。何をどうすればいいのか分からず、ただ茫然としていたのではないかと思います。とりあえずは炊出しのおにぎりを頂いて過ごして「つし」で過ごせるようにしたと思います。記憶が薄れていて詳しくはよく分かりません。

（次号に続く）